

# モニタリングサイト 1000 里地調査

## 次期（2023～2027年度）一般サイト募集要領

環境省自然環境局生物多様性センター  
公益財団法人 日本自然保護協会  
(モニタリングサイト 1000 里地調査事務局)

### <事業の概要>

モニタリングサイト 1000 は、日本の様々な生態系の動態を 100 年の長期にわたりモニタリングすることによりその変化をいち早く捉え、生態系及び生物多様性の保全施策につなげることを目的とした国（環境省生物多様性センター）の事業です（2003 年開始）。高山帯、森林・草原、里地里山など様々な生態系タイプごとに調査地点を定め、全国約 1000 カ所で調査が行われています。このうち里地里山については「モニタリングサイト 1000 里地調査（以下、里地調査という）」と呼ばれ、全国約 230 カ所で市民の方々のご協力によるボランティアの調査が行われています（図 1）。里地調査には毎年 1,300 名以上の方々に参加していただいております、2020 年度までに約 248 万件のデータが集まっています。

その結果、全国的な里地里山の状況も捉えられつつあり、2005 年から 2017 年度までの約 10 年間のデータを解析した結果、チョウ類やホタル類などの昆虫類のほかハシブトガラス、ヒヨドリ、ツバメなどの鳥類、ノウサギやテンといった哺乳類など、各地でごく普通にみられていた身近な生物種の多くが減少している可能性が示唆されました。これらの成果は、研究や国の重要な計画（生物多様性国家戦略、気候変動適応計画等）の根拠資料としても活用されています。また、各調査地での市民調査員が主体となった活用事例として、現場の保全管理への反映、地域で報告会の開催、地域のレッドリスト作成に活かす等、様々な活用事例があり、その事例数も年々増加しています。

★事業の詳細は以下をご覧ください

モニタリングサイト 1000 ウェブサイト（環境省生物多様性センターが運営）

<https://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/reports/>

モニタリングサイト 1000 里地調査ウェブサイト（事務局が運営）

<https://www.nacsj.or.jp/activities/guardians/moni1000/>

### <調査地の募集について>

今回、5 年間の一区切りとして調査を行っている調査地（一般サイト）が 2022 年度末に期限を終え、一部の調査サイトは今期で調査を終了するため、新たに 2023 年度から 5 年間の調査に参加していただく一般サイトを下記の要領で追加募集いたします。

環境省生物多様性センター及び事務局としては、調査成果を適切な保全施策につなげるという本事業の趣旨に基づき、得られた調査成果は積極的に里地里山の保全のために発信・活用したいと考えております。本事業の趣旨にご賛同いただき里地里山の保全にご協力いただけるの方々のご参加をお待ちしております。

\*里地里山とは、水路やため池、二次林や田畑、二次草原など、人間と自然の関わりが作り出した景観からなる生態系のことをいいます。

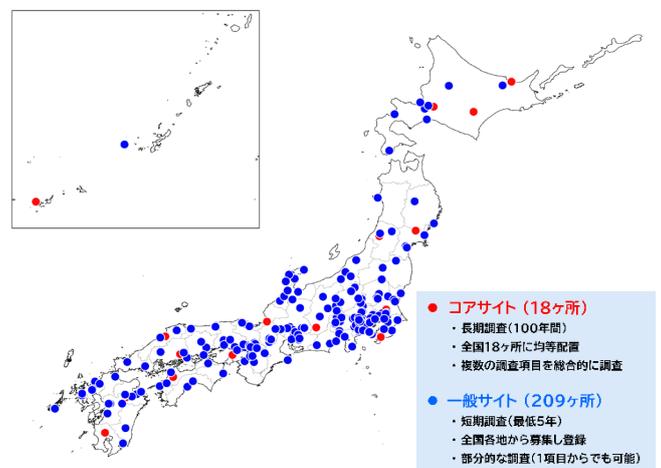


図 1. 現在の調査サイト（2022 年 4 月末）

# I 募集対象

## 1. 調査実施主体

各地域の里地里山において、「モニタリングサイト 1000 里地調査 調査マニュアル」（以下、「調査マニュアル」という。）に定められた方法で調査をボランティアで実施していただけるグループまたは個人を募集します。

## 2. 応募資格

応募者は、次の条件を満たすことが必要です。

- ① 特定地域の里地里山で自然環境の調査や保全活動を実施している、もしくは活動を予定しているグループまたは個人（グループについては、官／民は問わず、大学研究室、研究機関、公益法人、地方自治体、企業などに属する自主的グループや任意団体等も含まれます。NPO 法人としての登録の有無も問いません。）
- ② 次項に挙げる7つの調査項目のうち、最低1つの項目の調査を継続して実施できる体制と状況が整っていること
- ③ 本調査プロジェクトの趣旨を理解し、保全施策検討・調査研究等のために得られたデータを積極的に活用することに賛同できること

# II 調査の概要

## 1. 調査項目

里地調査では、多様で複雑な環境を含み、人間活動の影響を大きく受けやすいことから下記の7項目の調査を定めています。調査実施主体はこのうち1項目以上を選択することとします。

各調査マニュアルは、環境省生物多様性センターのモニタリングサイト 1000 ウェブサイト (<https://www.biodic.go.jp/moni1000/manual/index.html>) 及び事務局が運営するモニタリングサイト 1000 里地調査ウェブサイト (<https://www.nacsj.or.jp/activities/guardians/moni1000/howto/>) に掲載されていますのでご参照ください。

項目名		調査手法	調査期間・頻度
植物相		調査ルート上の植物の種名を記録	毎月1回
鳥類		調査ルート上の種名・個体数を記録	繁殖期、越冬期に各6回
中・大型哺乳類		自動撮影カメラにより種名・撮影頻度を記録	春～秋にカメラを設置
指標種群	カヤネズミ	調査区画内の巣の有無と環境条件を記録	初夏と秋の年2回
	カエル類	アカガエル類の卵塊数と環境条件を記録	産卵期間中（冬）、2週に1回程度
	チョウ類	調査ルート上の種名・個体数を記録	春～秋に月2回
	ホタル類	成虫の個体数と環境条件を記録	発生ピークまで7～10日に一度

※ 中・大型哺乳類調査は必要な機材を事務局より貸与します。

## 2. 調査期間（調査サイトとしての登録期間）

2023年4月から2028年3月までの5年間とします。

## 3. 調査の開始およびデータの提出

- ・ 調査サイトとして登録された後、調査開始に際しては、全国での調査手法統一のため、原則として、事務局が開催する調査講習会への参加をお願いします。ただし、調査マニュアルをご覧の上で、調査マニュアルに沿って実施できるという場合は、自主的に調査を開始していただいてもかまいません。
- ・ 調査結果は、規定の電子フォーム（Microsoft Excel のファイル形式）または、事務局指定のオンライン上の入力用フォーム（※）に入力いただき、事務局に提出していただきます。調査項目を複数実施している、また、調査担当者が複数いる場合は、グループ内で代表者（連絡担当者）が結果を取りまとめて事務局までご提出ください。

※ 現在、鳥類のみ Google スプレッドシートを利用した入力用フォームがあります。他の項目でも順次開発をすすめる予定です。

- ・ 調査結果は、おおむね年2回の提出期限（8月と翌1月）に合わせてご提出ください。現在、データ提出方法としては、①事務局指定のクラウドを利用したデータのアップロード、②メール添付の2つの方法を実施しています。

## 4. データの利用及び成果のフィードバック

- ・ 一般サイトとして選定された場合には、モニタリングサイト 1000 事業の調査サイトとして登録されます。また、生物多様性センターや事務局が運営する里地調査のホームページで調査サイトの一覧が公開されます。
- ・ 各調査サイトにおいて、各調査実施主体が自らで取得したデータは、その調査サイトの調査実施主体が保全に活かすために自由に使うことができます。
- ・ 環境省生物多様性センター及び事務局では、提出いただいたデータを本事業の趣旨に基づき積極的に公開・発信していきます。絶滅危惧種や地域の希少種の情報などを除き、原則全てのデータを一般公開します。また、行政施策や学術研究目的に限って、絶滅危惧種などのデータを第三者に提供する場合もあります。
- ・ 調査に参加いただく調査実施主体には、ニュースレターや成果レポート（調査報告書）等が定期的に届くほか、事務局が各地で開催する調査講習会や研修会、交流会へ自由に参加することができます。

## III 応募手続き

### 1. 応募方法

所定の申請書（Excel 形式）に必要事項をご記入の上、地図や写真などの必要書類を添付し、ウェブサイト上の申請フォームからご応募ください。

申請書や申請フォームは 2022 年 7 月に事務局のモニタリングサイト 1000 里地調査ウェブサイト (<https://www.nacsj.or.jp/moni/2022/05/30255/>) に公開します。

なお、送信に伴うトラブル等で締め切りまでに事務局に書類が届かない場合には、一切の責任を負いかねますので、その点ご了承ください。

## 2. 提出書類

提出していただく応募申請書類は以下のとおりです。控えとして、お手元に応募申請書類のコピーを必ず保管してください。応募申請書類を受け付けた場合、電子メールにて受領通知をお送りします。提出いただいた応募申請書類は返却致しかねますのでご了承ください。

- ① 申請書（Excel 形式）【必須】※PDF などに変換せず Excel のまま提出してください。
- ② 調査予定地域の範囲を記した地図（縮尺は 1/25,000 程度のものが望ましい）。【必須】
- ③ 調査地の概観が分かる写真（1～数枚）。【必須】
- ④ その他、関連する資料（団体の活動内容が分かるパンフレットや調査報告書など）。

## 3. 調査予定地の要件

- ① 陸域の二次的自然であり、人工のビオトープなど、人が新たに造成した場所ではないこと。
- ② 地権者や他団体との関係を考慮し、調査を実施しても問題ない場所であること。
- ③ チョウ、ホタルなど特定の種を対象とした調査を選んだ場合、これらを他地域から導入、または繁殖個体の放流等を行っていない場所であること。
- ④ 調査地名、調査団体名、調査項目、調査地の場所（住所は市町村区まで、緯度経度は小数点第一位（約 10km の精度）まで）をウェブサイトで公開することができ、得られた調査成果を里地里山の保全施策・調査研究に活用する際には、より詳細な位置情報や絶滅危惧種等の希少種情報を行政等に提供しても自然保護上の問題が生じない場所であること。
- ⑤ 調査労力及び里地里山の環境の変化を捉えるために、調査範囲はひとまとまりの生態系（目安として 30 ha ～100 ha）であること。

## 4. 応募締め切り

応募締め切りは、2022 年 9 月 30 日（金）17:00（事務局へ必着）とします。

## 5. 応募・問い合わせ先（申請書類の請求・送付先）

お問い合わせ及びご応募は、下記の連絡先までお願いします。

（公財）日本自然保護協会 モニタリングサイト 1000 里地調査 事務局  
（担当：福田 真由子／小林 彩／藤田 卓）

申請フォーム掲載ウェブサイト（7 月公開）

<https://www.nacsj.or.jp/moni/2022/05/30255/>

メールアドレス：moni1000satochi@nacsj.or.jp

TEL：03-3553-4101（受付時間 平日 10:00～17:00）

## IV 選考と結果の連絡

### 1. 選考方法

提出いただいた応募申請書類については、募集期間終了後、応募資格を満たす全てを対象として、モニタリングサイト 1000 里地検討委員会において、厳正かつ公平に個別選考を行い、環境省生物多様性センターが最終決定を行います。

### 2. 選考基準

下記のような調査予定地を調査サイトとして優先的に選定します。

- ① 調査を継続的に実施できる体制にある。
- ② 信頼性が高いデータが得られる。
- ③ 環境の変化を複合的に捉えられるよう複数の調査項目を実施できる。
- ④ 全国的な解析を行う上で有用なデータが得られる場所\*である。  
特に、里地調査の調査サイトが少ない地方（東北、日本海側、南西諸島など）・地域（都市部から離れた中山間地域など）。
- ⑤ この調査への参加によって調査予定地の保全に貢献できる。
- ⑥ Excel でのデータ入力ができ、Google フォーム、Google スプレッドシート、クラウドサービスが利用できる。

### 3. 選考結果の連絡

選考結果は、2022 年 12 月 31 日までに応募者全員にメールにて通知させていただきます。なお、選考途中での採否のお問い合わせには応じかねますので、その点ご了承ください。

以上